

2019



J・A・C

(第49号)



令和2年1月発行

発行元(公社) 日本山岳会千葉支部

〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 吉野 聡

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)「利尻山を望む 礼文島」

水彩画 小菅一弘(敬称略)

「新年の挨拶」 倶楽部ライフを安全に生き活きと楽しもう！

千葉支部長 松田宏也

新たな時代「令和」を迎え初めての新年になります。皆さん、あけましておめでとうございます。

昨年は千葉県にとっては台風災害に苦しめられた年でもありました。未だにブルーシートに覆われた家屋、通行止め林道も多くあります。心からお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧を願う次第です。

さて、最近の千葉支部の活動について述べさせていただきます。うれしいことに毎月の山行数が大幅に増えたのに加え、北は北海道から南は屋久島、海外はネパール、ヨーロッパへと会員の足跡は着実に広がりをみせています。同好会活動もこの一年でウォーキング、自然学、スケッチアートと立ち上げ、無理なく参加できる倶楽部を発足させました。安全登山の基本として①山行計画書の書式統一②遭難対策費



の積立て③緊急連絡網作成をおこないました。また、各活動の利便性UPのために会員・会友の最新リスト作成とメール連絡化推進、支部だよりの原稿書式改訂も実施しました。年明けからはホームページを刷新し会員専用ページの設置、郡界尾根報告書の出版を進める予定です。これらの活動を支える支部役員の方々に改めて感謝申し上げます。ところで、私は3月から約50日間ネパールに出かけます。



日本山岳会120周年記念事業としてのGHT(グレートヒマラヤトラバース)のファーストステージに参加することにしました。カンチェンジュンガ山群を歩き、たつぷりとヒマラヤに浸ってきたいと思います。不在の間、皆さんにはご迷惑をおかけしますが何卒ご理解ください。今年も活き活きと倶楽部ライフが楽しめる環境作りに努めますので皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

## 年次晩餐会、天皇陛下がご臨席

12月7日（土）

安間繁樹会員に秩父宮記念山岳賞

三田 博

今年度の日本山岳会年次晩餐会が12月7日、新宿の京王プラザホテルで行われた。千葉支部の安間繁樹会員が、これまでの西表島とボルネオ島における野生動物の生態研究が評価され第21回秩父宮記念山岳賞を受賞した。晩餐会に先立ち、会場では「西表島からボルネオ島」と題して記念講演が行われた。幼少時からの出身地・静岡の里山や南アルプスでの山との関わりから学生時代の西表島との出会いから始まり、その後のイリオモテヤマネコの動画撮影の苦労などエピソードを交えた野生動物研究が語られた。ボルネオ奥地の原住民の文化などスライドを使った説明など興味深い話に、講演会の参加者は聴き入っていた。

この日は天皇陛下がお見えになり、JACの自然保護活動の展示パネルや山岳写真展を見学された。午後6時からスタートした晩餐会にもご臨席され、食事やお酒を楽しみながら賑やかに談笑されていたようだった。中央の「富士山」テーブル席に陛下

は座られ、陛下のお隣には安間会員が座られた。即位に伴う公式行事が一通り終わられ、陛下はリラックスされたようでご退席されたのは午後9時近かった。

今年度は全国で47名が新永年会員となり、千葉支部から節田重節さんと浜口欣一さんが新永年会員になられ会員バッジが贈呈された。新永年会員を代表して節田さんが壇上からスピーチを行った。



## リアス海岸をハイキング（晴香園）10月19日（土）三木雄三

低気圧の接近で実施が危ぶまれた公益事業の晴香園ハイキングが10月19日（土）、当初の予定だった「富士山五合目お中道」から勝浦市の「鶴原理想郷」に行先を変更。園側から子どもら6人が参加、房総半島の基盤岩といわれる約500年前の地層や県立海の博物館などを見学、磯遊びに歓声を上げた。

リアス海岸では縄文時代の遺跡のほか、風で削られた砂岩の丘や断崖の地層を見学。磁石で砂鉄を採りながら台地の



成りたちを勉強した。また、漁港では漁具の手入れをしていた漁師さんから「マグロを捕る準備だ」と聞き、「マグロ大好き」と夢中＝写真＝。博物館ではクジラの骨格模型に「デカいなー。来て良かった」と大喜び。支部から中田、高橋（琢）、三木の3人が事業をサポートした。

理想郷は9月の台風15号で中止となった事業の復活。

## 中央アルプス 木曾駒ヶ岳～空木岳

齋藤米造

- 山行日（天候）：2019年9月13日～15日  
（13日晴れ、14日・15日快晴）
- 参加者：CL 山口文嗣、SL 三田博、  
吉永英明、宮崎美智代、三品京子、  
齋藤米造
- タイム：13日 13：08 千畳敷→15：00 木曾駒ヶ岳→16：00 宝剣山荘 14日 5：45 出発→6：05 宝剣岳→9：43 檜尾岳→11：38 熊沢岳→13：30 東川岳→14：20 木曾殿山荘  
15日 5：47 出発→7：47 空木岳→11：52 池山

13日、紅葉前の千畳敷は静かだった。入念なストレッチのあと山美化袋をザックにつけて出発。乗越浄土から、宝剣山荘に荷物をデポして木曾駒ヶ岳（2956m）へ。途中ニホンザルの群れに出会う。近年高山地帯に生息域を拡大しているという。50年振りに中央アルプスに復活した雷鳥が追い散らされてしまうのでは、と心配だ。花の中央アルプスもこの時期は薄緑のトウヤクリンドウが僅かに咲くのみだ。今回のルートは吉永さんにとっては60年振り、伊勢湾台風に遭遇しながらも登った経験談を伺いながら宝剣山荘へ戻った。



14日、曙光が差し掛かると甲斐駒、仙丈、北岳のシルエットが浮かぶ。ヘルメットを着用して宝剣岳（2931m）まで20分。山頂からS字状に連なる主稜線が空木岳まで伸びている。南東方向、塩見岳と西農鳥岳の間、雲海の上に富士山が浮かび上がる。左手に見える三ノ沢岳はカールを備えた立派な山容だ。宝剣岳山頂から三ノ沢岳分岐までホールドとスタンスを見極めながら、慎重に下る。先月の刃岳メンバーから「刃より怖いくらい」と声上がる。檜尾岳（2728m）、熊沢岳（2778m）を経て、東川岳（2671m）までアップダウンを繰り返し、体力を消耗させられた。

15日、木曾殿山荘を出て2782mピークを過ぎると岩場の難所が連続する。後ろから「TJAR」のネームプレートを付けた何人かが追いつき、サッと追い越していった。来年のトランスジャパンアルプスレースを目指す超人たちのトレーニングキャンプだ。空木岳（2864m）山頂からは槍・穂高、乗鞍、木曾御嶽、南アルプス、八ヶ岳まで360度の展望を堪能した。下山路は池山尾根を菅の台（850m）まで、2000mを一気に下った。

念願の木曾駒～宝剣～空木三山縦走、記憶に残る素晴らしい山行だった。誰かが「コース難度はCだけど、Dに近い気がする」と言った感想に頷いた。



## 奥利根源流秘境の山 平ヶ岳へ

羽藤美代子

奥利根源流の秘境の山と言われる群馬県と新潟県の境の平ヶ岳。当時の皇太子が登山する為に整備された皇太子ルートの中ノ岐登山口から登る一泊二日の山行。

2 台の車は関越自動車道をスイスイ走り、お昼は「いろり じねん」へ。山菜、キノコ料理等既にテーブルに並べられていて、ウワミズザクラの実の天ぷらは初めて食べた。沢山の地野菜料理でもてなしてくれた。時間もあつたので奥只見ダムを見学して、宿の伝之助小屋へ。夕食の後、山口さんが持参した 4,5 冊の平ヶ岳登攀史の本など、利根川水源の説明をしてくれた。教養の無い私はすでに頭がぼんやり、そしてご自身の奥利根源流域、平ヶ岳周辺山行は沢登り中心に 50 年前から 15 回も。奥深い探求心に敬服するばかりだった。

翌朝 3;50 宿のマイクロバスで中ノ岐登山口迄。体操で体をほぐし 5;40 登山開始



### ■山行日（天候）：

2019年9月29日（日）～30日（月） 晴れ

### ■参加者：

山口文嗣(L) 山田紀夫(SL) 諏訪吉春 渡部孝雄  
三品京子 廣村恵美子 羽藤美代子 吉田望

### ■タイム：登山開始5時40分 下山13時30分

平ヶ岳沢を渡ると直ぐに急登、登山道は狭く広葉樹林の中を歩くのは木々の息吹が感じられる。五葉松から眺める劔ヶ倉山が紅葉し始めていて青空に映えて美しい。赤い実を付けたゴゼンタチバナが目を和ませてくれる。途中愛媛から来た同年代の 7,8 人の団体に追い越され平ヶ岳から鷹ノ巣へ下山するらしく急いで登って行った。玉子石の分岐に出ると紅葉で彩られた庭園の景色が広がっていた。湿原が一面草紅葉で池塘が点在し絵画のような絶景。

夏のような太陽に日焼け止めクリームを塗り、しばし見とれていた。玉子石から池塘を望む景色が又とても良い。自然保護のための木道を池塘や草紅葉の中しばらく雲上のハイキングで 10;10 平ヶ岳山頂。古い平坦な土地が隆起していまにとどめられているとされる山頂から至仏山、燧ヶ岳、武尊山等見えた。雪の時期ここから燧ヶ岳迄まで歩くのもいいよ、との言葉に自信も無いのに夢が広がった。10;35 素晴らしい景色を惜しみつつ下山する。

## 裏岩手縦走・温泉トレッキング

三田 博

- 山行日（天候）：10月3日（木）～5日（土）
- 参加者：三田博（L）、三品京子
- タイム：10/3、8：50 松川温泉－10：50 三石山荘－11：30 三石山－小畚山－14：10 大深山荘（泊）。  
10/4、7：50 大深山荘－畚岳－11：20 八幡平駐車場－バスで後生掛温泉（泊）。  
10/5、6：50 後生掛温泉－焼山－10：30 玉川温泉

夜行バスで盛岡駅に早朝到着。路線バスに乗り換え松川温泉へ。今回の山旅の出発点だ。急坂を1時間ほど我慢して登ると緩やかなブナの森に。木陰から時折、岩手山が大きく見えてくる。やがて湿原に建つ三石山荘に到着。ここからさらに20分登り三石山頂に到着。曇り空が残念だが、一面まさに錦秋の風景だ。東北の紅葉名所の山なので平日でも沢山の人で賑わっていた。そこから小畚山、大深岳と小さなアップダウンを繰り返すこと3時間弱で無人の大深山荘に到着。夕方から雨と風が激しくなる。結局誰も来ず、三品さんと鍋をつまみにして酒を飲み始め、19時前には就寝した。



台風18号が温帯低気圧に変わった翌日、意を決して雨の中を出発。樹林帯の道なので風の影響は大して無い。高低差が少なく歩きやすい森の道だが、この雨の中を歩く物好きは居ない。八幡平の頂上駐車場までの4時間、誰とも会わず。後生掛まで歩く予定も、バスに乗車した。後生掛温泉では予約していたオンドルの大部屋へ。床が熱くて歩くのに苦労するほど。風呂に入って部屋に戻るが、いっこうに汗が引かない。こんなのでよく寝られるものだ。窓を開けると涼しいが長期逗留の常連さんたちに怒られる。夕食後、神奈川から来ている男性と酒を飲みながら談笑する。毎年秋と冬、自炊して10日間ほど泊まっているという。温泉入り放題で1泊3,000円しないのだからお得か。

翌朝、雨も上がり後生掛を出発、ブナの森を登っていく。熊鈴はザックに付けたのではあまり鳴らないのでストックに。2時間登って焼山に着くころに、また雨が。新築の焼山避難小屋の中をチェックし、すぐ出発。天気が悪いと休憩する気にならない。下り始めは背丈より高いクマ笹のヤブ漕ぎに苦戦。ゴールの玉川温泉近くで初めて単独の登山者と行き会うが、熊スプレーを手に持っていた。やはり熊の気配が濃厚な山域なのだろう。

## 玉原鹿俣山、日光白根山

吉田 望

10月は台風や大雨といった悪天候が続き、当初の予定であった皇海山は、林道が復旧しておらず、玉原鹿俣山と日光白根山に変更して実施した。

一日目は、鹿俣山へ向かった。玉原センターハウス前の駐車場に車を留めて登山開始である。玉原センターハウスから舗装道路を少し歩き、玉原湿原に入る。木道をしばらく行くとブナ平にはいる。森林浴を楽しみながら、黄葉したブナの大木の中を進んでいくと、視界が開けゲレンデにでる。そして緩やかなトレッキングルートをたどっていく。その後、ゲレンデを外れて30分ほど登ると、鹿俣山(1636m)の頂上に到着。残念ながら、頂上からは雨雲がかかった灰色の空しか見えなかった。小雨の降る中を同じ道を下り、片品の民宿に宿泊した。

2日目は日光白根山を目指す。昨日の鹿俣山に比べると難易度は上がる。この日は朝から雲一つない



- 山行日(天候): 2019年10月27日(曇り一時雨) 28日(晴れ) 1泊2日
- 参加者: 松田宏也(L)、山崎完治、湯下正子、三品京子、梶田義弘、吉田望(6名)
- タイム: 1日目: 玉原高原センターハウス(10:10) ~ 鹿俣山頂(13:25) ~ 玉原高原センターハウス(15:15)  
2日目: 丸沼高原山頂駅(8:45) ~ 日光白根山頂(11:30) ~ 丸沼高原山頂駅(14:10)

快晴であった。丸沼高原山麓駅から登山口のある山頂駅までロープウェイを利用した。登山口の二荒山神社に、山行無事を祈念して歩き始める。前半は木漏れ日のさす森林帯を歩き、後半は岩の転がっている足場の悪い登山道を登っていく。吹きっさらしの岩道では、頬に冷たい風が強くあたる。傾斜の急な登山道を、足元に注意を払いながら登っていくと、ほどなく日光白根山(2578m)の頂上にたどり着いた。空に突き出た岩峰で、紅葉した山々の大パノラマに囲まれて至福の時を過ごし、同じ道を下山した。午後も頂上付近は雲がかかることもなく、一日を通して最高の天気恵まれた。

2日間とも、予定通りのコースタイムで無事に山行を終えた。

(

## 三条の湯から雲取山

三田 博

- 山行日（天候）：11月3日～4日（曇り晴れ）
- 参加者：三田博（L・記録）、山口文嗣（SL）、  
吉永英明、梶田義弘、川嶋辰雄、  
三品京子、湯下正子
- タイム：11/3、11：45 お祭りバス停→14：20  
後山林道終点→14：45 三条の湯  
11/4、6：10 三条の湯→9：20 三条ダルミ→10：05 雲取山→11：40 ブナ坂→  
14：30 鴨沢バス停

奥多摩駅から丹波行きバスは午前中 2 本だけ。11 時発のバスに乗り、お祭りバス停から 3 時間のノンビリ林道歩き。いい加減飽きてきた頃に三条の湯のテント場に到着する。小屋はその上の溪谷の斜面に建っていた。受付で JAC の会員カードを出すと 1 泊 2 食 8,300 円から 500 円値引きしてくれた。部屋は我々 7 人だけのゆったりした個室だった。宿代をまけてくれたからではないが、従業員は皆親切で感じが良い山小屋だ。

さっそく風呂に入ることにするが、湯船は 4、5 人がやっと。テント泊の人も入浴するので順番に入る。透明で少しぬるっとした湯であったまり、気分さっぱりした後は部屋で、持ってきたツマミで一杯始める。ほどなく夕食になり、川魚の甘露煮やらハヤトウリの漬物など出て晩酌の続きを。夜は遅くまで食堂で、若者たちの歌声が聞こえ賑やかそうだった。

翌朝は、梶田さんのストレッチ体操でスタートした。歩き初めにザレた登りがあり注意しな

がらのスローペース。水無尾根を 3 時間かけ三条ダルミへ。紅葉もこれから最盛期なのだろうか、明るい森だ。途中、真っ白な富士山が大きく見えた。三条ダルミから雲取山避難小屋までは、笹の中を息を切らして 40 分我慢、最後の急登だ。ようやく着いた山頂には、立派過ぎる石塔の標識が立っていた。東京都最高峰だから気張ってみたのか。

山頂で昼飯にしたら、後は鴨沢のバス停まで下りるだけだ。広くなだらかな稜線をのんびり歩く。閉鎖された奥多摩小屋の入り口にはロープが掛かっていた。テント泊するには眺めが良くて最高の場所だっただけに、もう使用できないのは残念だ。

ブナ坂分岐から巻道は通行止めになっていたため、七つ石小屋を経由する。長い長い下山道を歩いて、ようやく鴨沢バス停に到着。帰りに奥多摩駅前「天益」のギョウザで一杯やり、ホリデー快速の最終便に乗った。



## 多古道の駅紫陽花鑑賞

6月22日(土)

塩塚生二

JR 総武本線・飯倉駅に、6月22日9:50に集合した。天気は曇りのち雨とのこと。

飯倉駅—横芝光スポーツ公園—篠本堰 まで、7kmの静かで穏やかな村里の道を歩く、三木さんの説明では、(このあたりは、「縄文海進」と呼ばれる約6千年前のはるかな昔は浅い海だった。それが約3千年前の弥生時代になると「海退」と言って海の水が沖に引いて沖積地、つまり低い平野が広がった。上流域の湿原や海草沼、梅の名所で名高い坂田城址の坂田池などは海が引いて窪地に水が留まった海跡湖)と

のこと。そう言えば、「貝塚」や「新田」という地名があった。篠本堰—栗山川—多古道の駅まで2km位延々と紫陽花が続く、この道を「あじさい遊歩道」と



言い、町の中心を縦断するように流れる栗山川の兩岸は紫陽花で彩られている。川の恵みに感謝を込めて、1万株の紫陽花を土手に植えて完成させたとのこと。さすがに美しい風景をただよわせている。

### 参加者

杉本正夫、三木雄三、高橋琢子、岩尾富士夫、香高真奈美、塩塚生二



多古道の駅で昼食を取る。「多古米」で出来たランチなど頂き、大変美味しかったです。また、多古町は、ロケの町として有名で「ゲゲゲの女房」「梅ちゃん先生」「永遠の0」「ALWAYS 三丁目の夕日」など撮影があったとのことでした。

食後、日本寺(にちほんじ)まで約2km往復しました。日本寺は歴史上有名な檀林(僧侶の学問所)のあった寺として知られ、千葉県内でも有数の紫陽花の名所であり、境内に植えられ約8,000株、それは美しく雨に打たれた色鮮やかでした。

千葉に住んでいて素晴らしい所を紹介して頂き有難うございました。

## 印旛沼から利根川① 高橋正彦

- 歩行日(天候) : 2019年9月29日 (曇り)
- 参加者 : 杉本(L)、岩尾、高橋(正)(記録)、塩塚、小林、梶田、高橋(琢)(会計)、新井 8名
- タイム : 10時~13時30分

前日に懸念された天候も青空も見えて何とか一日持ちそうである。

出発駅は北総印旛日医大前、道幅2mのサイクリング・ロードを一行になって、出発進行！！

間もなく松虫寺へ着く、ここは奈良時代に僧行基の開創とされ名刹である。ここからはコンビニも自動販売機もない。まさに頭上に東西南北の地平線まで広がる大空と印旛沼に泳ぐ魚と鷺、カワセミ、鳥等の野鳥の世界である。「あばれ沼」と云われた印旛沼の工事は江戸から明治、大正、昭和44年まで375年目によりやく完成しました。終点まで約12km,天然温泉大和の湯でひと風呂浴びて乾杯。成田線下総松崎 (Shimosa manzaki) とありました。



## 雁ヶ腹摺山への富士見山行 甘楽敦夫

- 山行日(天候) : 11月9日 (土)、(晴れ)
- 参加者 : 松田宏也 (L)、三木雄三 (SL)、香高真奈美、高橋琢子、山崎完治、湯下正子、吉田望、甘楽敦夫
- タイム : 大峠 10:58 - 11:30 休憩 11:



雁ヶ腹摺山(1,874m)は、大月の北にそびえる、旧五百円札の裏面に描かれた富士山の撮影で有名な山だ。11月9日、大峠から約2時間の歩行でこの山を往復した。頂上での昼食休憩までは、絶えず富士山が姿を現してくれた。

「富士には、月見草がよく似合う(太宰治『富嶽百景』)。」実際、富士山には、どんな取り合わせでもマッチさせる包容力があるのだろう。頂上からの展望は南側だけだが、すすヶ原と富士山のコントラストが絶妙だ。太宰風に言えば、富士には、すすきがよく似合う。

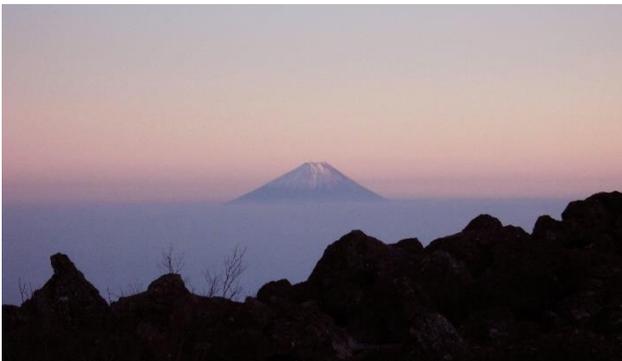
宝永噴火などの大災害にもめげずに日本人が古来富士山を崇めてきた根本には、自然への畏敬の念があるのではないか。秋晴れの雁ヶ腹摺山はそんな感慨を抱かせてくれた。

## 編笠山

今井貴朗

- 山行日(天候) : 2019年11月2～3日(晴れ)
- 参加者 : 松田宏也(L)、今井貴朗(記)  
(他支部、非会員等7名)
- タイム : 観音平(10:50)→押手川(12:40)→編笠山  
(15:10)→青年小屋(16:10)  
青年小屋(8:20)→押手川(10:00)→  
富士見平(11:20)→観音平(12:20)

11月2日(土)当日は晴天の絶好の登山日和、個人的に会山行初参加、約3ヶ月ぶりの登山となる。観音平には日本山岳会理事の清水さんはじめ、支部以外の方も含め総勢9名集合、登り始める。3連休とあって駐車場は大混雑振りだが、直ぐに喧騒も遠ざかり紅葉も楽しみながら爽やかな空気の中徐々に快適な登山を楽しめた。編笠山頂が近づくにつれ、勾配も急になって息が切れてくるが、振り返ると富士の美しい姿をはじめ、遠く連なる山波に心が癒されながら山頂に到着した。山頂から見るパノラマは最高の一時で、北/中央/南アルプスから富士山、目前には権現、阿弥陀、赤岳等八ヶ岳の主峰群が迫ってまさしく圧巻の360度展望だ。パノラマを楽しんだ後は青年小屋の「遠い居酒屋」で楽しい一夜が過ぎてゆく。



青年小屋からの富士山

## 蔵野台地の成りたちを学ぶ

調布市深大寺 三木雄三

- 実施日 : 2019年10月26日(土)
- 参加者 : 新井好夫、稲川由紀、大浦陽子、  
梶田義弘、梶田天兵、香高真奈美、  
小林義亮、齋藤米造、櫻田直克、  
塩塚生二、鈴木操、高橋琢子、  
中場義則、能美勝博、舩木元、  
山口文嗣、吉田望、三木雄三(L)

自然学クラブは10月26日(土)、調布市の深大寺周辺＝写真＝で武蔵野台地の成りたちを学ぶ自然見学会(巡検)を実施した。この辺りの崖を見ると、黒土の層の下に赤土の層が見える。黒土はクロボク土壌といってススキ草原が火入れで土に変わったほぼ1万年前の層。その下は古富士火山から飛んできた火山灰が風化によって赤くなったもので1万年より以前の氷河期に堆積し、さらに多摩川の流れてきた小石の混じった礫層、粘土層が下に続いている。

武蔵野といえば国木田独歩の小説などの影響で雑木林のイメージが強いが、実は徳川幕府が江戸の町の材木生産地としてススキ草原だった台地にケヤキ、クヌギなどを中心に植林させたものだ。

そうした雑木林が涵養した地下水で深大寺は湧き水が豊富。その恵みの名物ソバを味わい、さらに多摩川氷河の下刻で出来た国分寺崖線や氷河期後の豪雨が削った河岸段丘も見学した。



寄稿

## アルプスの山旅 2019

岩尾富士夫

昨日、クールマイヨールに到着。6/29日はモンテ・デラ・サックスへ登る。登山口はジョラスの麓である。ほどよい勾配で花を撮りながら高度を稼ぐ。ほどなくメイントレックに合流する。右手に2000mの等高線沿いに進む。正面がグランドジョラス、左端で山群を締めているのがモンブランでいずれも岩の針峰である。初夏であろうか花は咲き始めのような感じ。ここまで来て、憧れの山々を見て、感じ、歩いている喜びを感じる。2045mの標識辺りが



尾根の突端で、真下がクールマイヨールの町である。モンブランに突き上げる鋭いプトレイ山稜、モン・モデイ、ツール・ロンド、ダン・デ・ジュアン等が氷河を従えている。このベルトーネ小屋でビールは美味しい。

6/30日はシャモニーへの移動日、スカイウェイの駅は30分ほどで着きゴンドラに乗る。70～80人乗りの円形でゆっくり回りながら上がるので、360度見渡せる。エルブロンネ3466mは伊・仏の国境である。ミデイへのパノラミック・モンブランは4人乗りの3連結でそれほど待たずに乗れて一安心。ゆっくりと動き出しジュアン氷河を見下ろし、山々を眺める。氷河にはいくつものパーティが動いている。時々止まる、写真タイムである。途中の小高い尾根上でケーブルを受ける支柱がありそのままミデイへ上がって行く。とても長いロープウェイ(5250m)である。ミデイ3842mに上がると雪を頂くモンブラン等迫力ある山々が見える。ビール

で乾杯しシャモニーへ下った。

シャモニー (7/1～7/2) モンタンベールで氷河トレックをもくろんだが、下降点から垂壁を長い梯子で氷河に降り立つが、登り返しに汗を流しそうなので、その分軌道沿いに下る。

ツエルマット (7/4～7/6) アラリンホルン4027mはサースフェーにある。ポストバス終点から少し歩いた所のロープウェイは運休、そこに稼働状況のパネルがあり動いている所まで歩く。チケット売り場から乗り場までがまた長い。乗り継いで地下ケーブルでミッテルアラリンへ。スキー場を横断し、装備装着、氷河の登行開始、次第に勾配増し大きなクレバスを越えジクザクにのぼり、フェーヨッホ3826mに上がる。ケーブルの最終便から逆算し引き返す。

グリンデルワルト (7/8～7/10) メンリッヘン、バツハアルプゼーで遊ぶ。

サンモリッツ (7/12～7/13) ピッツコルバッチ3451mへは、始発のロープウェイに乗るが昨夜の降雪で白化粧。登山口で様子を見るが黒雲にいくつもの足が垂れ落雷の危険性が高く、ロゼック谷に変更。中間駅まで下がり、ロゼック谷からポントレジーナに向かう。峠には池がありピッツ・ベルニナ4049mが池に映え良い景観である。ここは広い谷間で明るく花も良い。下に降り乗合馬車でポントレジーナまで一時間の優雅なひと時を過ごした。



寄稿

## 世界自然遺産「屋久島」 5.30(木)～6.4(火) 三品京子

5月30日 鹿児島市内に一泊、翌31日高速船で屋久島入り。レンタカー利用で、これからの山行は全てピストンになる。早速、白谷雲水峡谷を歩く。白谷橋から二代杉・くぐり杉等の屋久杉を過ぎ「もののけ姫」のモチーフとなった苔むす森に、そして辻峠で昼食をとり太鼓岩へ、急登をぬけると空中に飛び出したような大岩が現れる。木々など遮るものはない、海岸からは見ることのできない屋久島の奥岳を一望に。

6月1日 この日からずっと雨中の山行となった。宮之浦岳を目指し淀川口から登山スタート。雨の勢いは収まらず景色もさえぎられる中、淀川小屋を越え宮之浦岳に！運よく雨がやみ山頂からの景色を見ながら昼食を済ませる。下山開始まもなく笹の登山道、一人がやっと通れる道を登りにも出合った鹿が目前で笹を食べている。待つこと10分、山の中へ去ってくれた。小雨の降り続く中、日没前に登山口駐車場へ到着。

2日 西部林道・大川の滝などを観光後、落ノ滝までピストン。地図に載っていないガイドしか知らない道で、小川さんが3回チャレンジして見つけた登山口。藪こぎをしながらルートを40分、いきなり滝壺に出る。雨で岩が濡れ危険な足場から真上を見上げると雨で水量が増えた滝から水しぶきが降ってくる。大川の滝・千尋の滝を見てきたが、この滝は別格であった。

3日 龍神杉(竜神杉)登山。白谷雲水峡の苔が有名だ



が、ここも苔むす石の登山道が続く。やがてトロッコ道、枕木に注意しながら歩く。急登と戦い龍神杉の元に到着。風神・雷神杉を従え、数千年と言う年月を刻んだ大杉、凄い！ここまで登ってきた途中にも立派な杉を見てきたが格が違う。

4日 屋久島最後の日。西部林道沿いにある半山のガジュマルに会いに川沿いを海岸へと歩く。集落跡に熱帯植物のガジュマルが本体から気根を地に伸ばす姿は南の島にいるのだと感じた。午後、屋久島を後に鹿児島空港で解散。

屋久島で過ごした5日間、毎晩、屋久島の肴をいただきながら反省会は大いに盛り上がった。

参加者 CL 山本哲夫 SL 小川和敏 吉田望 宮崎美智代 三品京子



予定では、東から羅臼岳、斜里岳、雌阿寒岳と進むはずが、一番メインに考えていた斜里岳に向かう日がなかなか天候に恵まれず、最終的には斜里岳が最後ギリギリに。

冬に摩周湖のスノートレッキングの時に見た斜里岳の勇姿が今回山行のトリガーだったので、良い日に登りたく苦心した感じ。

まずは、羅臼岳へ。小屋横の登山口から、やはりクマさんを気にしつつ…羅臼平までコースタイム通りに進むも、最後の標高100mほどの岩場がきつくここはゆっくりと登頂。下山は途中で知り合った千葉県の方などと一緒に。登山口まであと30分くらいの

場所で休憩中に、すぐ後ろを下りてきた二人連れが興奮した様子で、今そこでクマが登山道に出ましたと。エー!!!あと3、4分遅れていたら、我々が遭遇!!!やはり、羅臼岳!!!登山口の小屋主曰く、「また、出ましたか」と淡々としたものの。



次は斜里岳と構えたところ、なかなか良い天気には恵まれず、タイムリミットで雌阿寒岳を先に。途中の阿寒道路の霧が酷かったが、登山口の温泉はまあまあの感じ。アカエゾマツの樹林帯の中をゆっくりと。4、6、8号目と順調に。急登の後、外輪山に

たどり着く。いかにも火山という大皿火口が素晴らしい。残念ながら、雌阿寒岳、阿寒湖方面は雲の中。急ぎ清里町へ戻り、明日の斜里岳に備える。当然、お酒を飲みながら…

最終日前日、都合3日間待った斜里岳へ。今日は眺望も期待できそう。

宿のご主人に教えてもらった徒渉のコツを復唱しつ



つ林道から沢へ。確かに、下手に大きな岩の上を渡るより、少しばかりの水は気にせず、沢の中を歩いた方が滑らない。何とも楽しい下二股、そして、上二股への旧道ルート。滝を横目に岩登りとは!!!

さてさて、馬の瀬までの胸突き八丁を頑張り、一服して頂上へと。頂上直下に固有種のフタマタタンポポが何株か。頂上からは、海別岳の先に知床連山が…何ともいい感じ。下りの新道は、アップダウンが有って結構きつい。3日間待機した甲斐もあり、印象に残る山行となってくれた。

## シリーズ

## あのころ君は若かった

(第1回)

アルバムの日付は1970年8月だから、19歳の頃の写真です。北ア表銀座から槍穂高を縦走した時で、カネが無いからツェルト泊。当時は加藤文太郎に憧れ、単独行が常でした。背景には三俣蓮華方面が写っています。ニッカーボッカーのズボンが懐かしいです。帽子は、70年ごろの学生が好んで被っていた記憶があります。(三木雄三)



山行計画

(支部山行) 1月以降の山行計画です。参加・問い合わせは各リーダーへ。

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
1.12(日)	弘法山	A	公益事業・晴香園 先着4人	三木雄三	締切済
1.18(土)~19(日)	谷川岳	D	雪山、厳冬期だが晴れたら天国	三田 博	締切済
1.25(土)	高松山(丹沢南部)	A	富士山の眺望良し	松田宏也	1.15(水)
1.11(土)~12(日)	新島・宮塚山	B	伊豆諸島の山旅シリーズ①	山田紀夫	締切済
2.1(土)	房総の沢④志組川	C	高岩山自然動物園から	三田 博	1.25(土)
2.15(土)~16(日)	4支部懇談会		茨城支部主催		締切済
2.29(土)	湯河原・幕山	B	湯河原梅林「梅の宴」	三田 博	2.22(土)
2.8(土)	塔ノ岳(大倉尾根)	C	安全登山のための体力測定登山	山田紀夫	2.1(土)
3.14(土)	赤ぼっこ	B	見晴らし良い青梅の低山	三田 博	3.7(土)
3.21(土)~22(日)	神津島・天上山	B	伊豆諸島の山旅シリーズ②	山田紀夫	2.20(木)
4.10(金)	秩父・叢山	A	桜の名所・美の山公園	小川和敏	4.3(金)
4.17(金)	本仁田山	B	登りがいある奥多摩駅の裏山	小川和敏	4.10(金)
4.18(土)	丹沢の沢	D	西丹沢で初級沢登り	三田 博	4.11(土)
4.25(土)~26(日)	会津駒ヶ岳	D	麓に泊まり滝沢登山口から日帰り	三田 博	4.1(水)
5.5(火)~7(木)	北穂高岳	D+	まだまだ冬山、急斜面の登下降	山本哲夫	4.14(火)
5.9(土)	千葉支部支部総会				
5.16(土)~17(日)	全国支部懇談会		宮崎支部主催 詳細後日通知します	三田 博	
5.22(金)	桐生・吾妻山	A	桐生の低山	小川和敏	5.8(金)
5.23(土)~24(日)	式根島	A	伊豆諸島の山旅シリーズ③	山田紀夫	4.23(木)
6.5(金)~6(土)	天城山	B	シャクナゲ時期に。マイカー使用	小川和敏	5.22(金)
6.19(金)	両神山	C	日向大谷ルートで。マイカー使用	小川和敏	5.29(金)

山行委員の連絡先	
小川和敏	
杉本正夫	
松田宏也	
三木雄三	
三品京子	
三田 博	
山口文嗣	
山田紀夫	
山本哲夫	

難易度

W ウォーキング

A 整備され歩行2~3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難易度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難易度アップとする。)

(同好会と個人山行の計画)

日程	山名		備考	リーダー	締切
1.10(金)～13(月)	山形蔵王スキー	<b>B</b>	サンゴロウ及び山形山岳会小屋泊	松田宏也	締切済
1.18(土)	成田山初詣	<b>W</b>	成田さくらの山公園と新勝寺	杉本正夫	1.4(土)
3.28(土)	江戸川周辺ウォーク	<b>W</b>	江戸川菜の花と野田市街散策	杉本正夫	3.21(土)
3.29(日)	千葉昭和の森	<b>N</b>	カタクリと水源地形の巡検	三木雄三	3.20(金)
4.2(木)～7(火)	屋久島	<b>個</b>	新緑季節に。同行したい方どうぞ	小川和敏	要問合せ
4.19(日)	岩殿山と猿橋溶岩	<b>N</b>	地質を見ながらの軽ハイキング	三木雄三	4.12(日)
4.25(土)	つくば市	<b>W</b>	つくば学園都市めぐり	杉本正夫	4.18(土)
6.20(土)	江戸川周辺ウォーク	<b>W</b>	江戸川と水元公園	杉本正夫	6.13(土)

**W**=ウォーキングクラブ、**N**=自然学クラブ、**B**=ビスターリ倶楽部、**個**=個人山行

**※ウォーキングクラブ来春の企画「桜でつなぐ手賀沼と東京湾」**

2月22日(土) 手賀沼半周と河津桜      3月22日(日) 海老川河口→水源地御滝不動と染井吉野  
 4月18日(土) 分水界越えと八重桜      5月16日(土) 大津川沿いウォーク      予備日 5月23日(土)

**☆山行の心得** リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。連れて行ってもらうのではなく自主的な意識を持ち参加してください。リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも行うようにして下さい。

**●海外山行のお知らせ(台湾 南湖大山)**

台湾の南湖大山(3,742m)を登ります。亜熱帯に属し、台風の通路でもあります。その影響を避けるため現地と調整し6月下旬を目標としています。3,100～3,600mの縦走があり、持久力・体力が必要です。これは台湾山岳協会の協力のもとに実施します。

場所：台湾 南湖大山

難度：C+

時期：2020年6月20日～26日(7日間)

募集人員：16名

締め切り：2020年2月20日

担当：岩尾富士夫

## お知らせ

大澤雅彦会員が2019年度「東急財団 社会貢献環境学術賞」を受賞。

大澤会員は一貫して植生を中心とした自然環境と人間社会との関わりを研究テーマとして、日本国内はもとよりヒマラヤ、中国、東南アジア等での植物分布の調査・研究に取り組んでまいりました。その知見は、現在、世界の生態系の予測研究の基礎となるなど、自然環境と調和した持続的な社会の創造に向け大きく貢献しているところです。その功績に対して11月29日(金)「東急財団 社会貢献環境学術賞」が贈られました。

この賞は、日本の環境分野において学術的、かつ社会的に特に顕著な業績を挙げた研究者を表彰するもので、環境部門で非常に権威あるものとされています。

## 役員会報告

◎9月報告 9月17日(火)市川アイ・リンク

(松田、山口、三品、吉野、三田、上村、杉本、山田、小川、山本、塩澤、甘楽)

山行報告(劔岳と裏劔、木曾駒～空木、鹿島槍、籠ノ塔・水ノ塔、鳳凰三山、内浦山キャンプ)

山行予定(平ヶ岳、裏岩手、玉原高原・皇海山、ウォーキング同好会、自然学クラブ)、

年度テーマ進捗報告、4支部懇他

◎10月報告 10月15日(火)市川アイ・リンク

(松田、山口、三木、三品、三田、上村、杉本、小川、山本、吉野)

山行報告(平ヶ岳、裏岩手)、山行予定(晴香園・鶴原周辺、雲取山、雁ヶ腹摺山、元清澄山、高峰高原、

ウォーキング同好会、自然学クラブ)、

年度テーマ進捗報告、スケッチクラブ結成、全国支部合同会議報告他

◎11月報告 11月20日ヨシキYYルーム

(高橋、松田、山口、三品、吉野、三田、上村、山田、小川、山本、甘楽、岩尾)

山行報告(晴香園・鶴原、雲取山、雁ヶ腹摺山、玉原高原と日光白根山、編笠山、ウォーキング同好会、自然学クラブ) 山行予定(元清澄山、筑波山、房総の沢、北横岳、忘年山行、新島、ウォーキング、

スキー)、年度テーマ進捗報告、来年度海外山行(台湾)、支部だより、台風被害報告他

### 編集後記

ヒマラヤのドン・キホーテの異名を持つ宮原巍さんが亡くなった。ネパール最後の夜、我々はカトマンズの自宅に招待していただいた。そこでご馳走になったカレーがおいしかった。そしてアコーディオンを奏でていた宮原さんの笑顔が忘れられない。

ご冥福をお祈りします。

(S.Y 生)



三陽メテア株式会社